

茨城切花流通研究会がグラジオラス品質規格実態調査・検討会を開催

茨城切花流通研究会（京浜市場卸会社12社、関係2団体で構成）は、7月22日（金）に会員14名、生産者・関係者23名、計37名出席のもとグラジオラスの商品性向上等を図るため、品質規格実態調査・検討会を土浦市内で開催しました。

実態調査では、市場に出荷された県内産地及び他県産地のグラジオラスの調整・選別や品質について、調査を行い、その結果をもって卸各社と生産者との間で検討会が開催されました。

検討会において卸各社からは「一部の産地では、切り前が硬すぎる場所がある。色が判断できるようになってから切った方がよい。」「暑さによる葉やけについては、どの産地も気を付けてほしい。」との講評がありました

また、「インターネットによる売り情報を、前日の午前中から午後1時頃、午後5時頃から午後8時頃に確認している買参人が多い。できるだけ早く情報をいただいた方が販売上のメリットが高くなる。」との意見をいただきました。

生産者からは「この会議は、市場、生産者が一緒になってグラジオラスを良くしていこう、という思いが感じられる。今後も参加していきたい。」との声が聞かれました。

最後に、斉藤常夫会長（(株)世田谷花き 営業部長）から、「全体として茨城産は他県産に負けてはいない。ただし、規格どおりに『揃える』努力を今後も継続し、商品性の向上に努めていただきたい。」との意見をいただき閉会しました。

東京本部と茨城切花流通研究会では、今後とも市場と産地とをつなぐ活動を通じて、花の販売促進に努めて参ります。



実態調査の様子



検討会の様子